

中国・ハルバ嶺における遺棄化学兵器廃棄処理事業 ロジックモデル

事業の目的：化学兵器禁止条約及び日中覚書に基づき、中国・ハルバ嶺における日本の遺棄化学兵器を廃棄する義務を履行するために必要な事業を実施する。

インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム	インパクト
予算額 【29年度】35,910 【28年度】34,313 【27年度】31,177 【26年度】26,443 (単位:百万円) ※遺棄化学兵器廃棄処理事業経費当初予算額	中国側と協議しながら、化学兵器禁止条約上の義務を履行するため、中国・ハルバ嶺における旧日本軍の遺棄化学兵器について、環境と安全を最も優先しつつ、速やかに発掘・回収、廃棄処理を行う。	各年度の成果目標に従って、ハルバ嶺における遺棄化学兵器を廃棄	人員の安全確保及び環境の保護を最も優先させるとの前提の下で、ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄を2022年中に完了	本事業は、遺棄された化学兵器の廃棄を行うとの化学兵器禁止条約上の義務を履行するものである。
化学兵器の開発、生産、貯蔵及び使用の禁止並びに廃棄に関する条約(1995年批准、1997年発効) 日本国政府及び中華人民共和国政府による中国における日本の遺棄化学兵器の廃棄に関する覚書(1999年署名) 日本国政府及び中華人民共和国政府による中国における日本の遺棄化学兵器の2012年4月29日の後の廃棄に関する覚書(2012年署名)	中華人民共和国において日本が遺棄した化学兵器の2016年より後の廃棄計画 中華人民共和国において日本が遺棄した化学兵器のハルバ嶺における廃棄計画	ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄数(目標)(単位:発) 【28年度】6,328 【27年度】983 【26年度】56 ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄数(実績)(単位:発) 【28年度】6,118 【27年度】938 【26年度】56		

手段と目標の因果関係に関する検討の結果

- ・本事業は、遺棄された化学兵器の廃棄を行うとの化学兵器禁止条約上の義務を履行するとの方策目的を達成するため、中国・ハルバ嶺における発掘・回収及び廃棄を実施しているものであり、政策目的の達成手段として必要かつ適切である。なお、本事業は、前例のない事業であり、比較の対象がない。
- ・成果実績は各年度の成果目標に概ね見合ったものとなっている。
- ・中国・ハルバ嶺に整備された遺棄化学兵器の処理場及び設備は、廃棄処理のために十分に活用され、各年度の目標に応じて遺棄化学兵器の処理を実施している。

【1】課題把握・目標設定

(目標)

中国吉林省ハルバ嶺に埋設されている遺棄化学兵器の廃棄を2022年中に完了することを目指して最善の努力を払う。

(現状把握)

ハルバ嶺の廃棄処理設備において2014(平成26)年度から2017(平成29)年度までで累計11,095発を処理した。

※処理砲弾数には、ハルバ嶺回収砲弾以外にハルバ嶺近郊からの回収砲弾を含む(ハルバ嶺回収砲弾累計は、8,910発である。)

(課題)

2022年中に廃棄を完了させるためには、処理能力(スピード)等の向上が喫緊の課題である。

【2】政策手段の比較・検討

(手段)

事業を大幅に加速させるため、大型廃棄処理設備(制御爆破方式)を国内で製造し、2020年度中にハルバ嶺で稼働させる。

(比較)

本事業は、前例のない事業であり、比較等の対象がない。

【3】手段と目標の因果関係の検討

(手段)

これまで加熱爆破方式及び制御爆破方式を用いて試験的に廃棄処理事業を実施してきた。

(検討)

試験的に実施してきた成果実績は、各年度の成果目標に概ね見合ったものとなっており、いずれかの方式による大型廃棄処理設備の導入の必要性を検討した。

【成果】

(単位：発)

年度	目標	実績	達成度
2017(平成29)	4,366	3,983	91.2%
2016(平成28)	6,328	6,118	96.7%
2015(平成27)	983	938	95.4%
2014(平成26)	56	56	100%

部局名：遺棄化学兵器処理担当室

EBPM 対象事業名：中国・ハルバ嶺における遺棄化学兵器廃棄処理事業

【 4 】 効果の測定

(効 果)

中国・ハルバ嶺に整備された遺棄化学兵器の処理場及び設備は、廃棄処理のために十分に活用され、各年度の目標に応じて遺棄化学兵器の処理を実施している。今後、事業を大幅に加速させるため、入札により大型廃棄処理設備（制御爆破方式）を導入し、遺棄化学兵器の廃棄を2022年中に完了することを目指して最善の努力を払う。

※従来（既存廃棄処理設備）の制御爆破方式（チャンバー）の設備を大型化し、設備を増設することにより、廃棄処理数の増加が見込まれる。

以 上

遺棄化学兵器処理事業の概要

佳木斯(黒龍江省)
河底(松花江)に遺棄化学兵器。
2015年に試掘を開始。



北安(黒龍江省)
2018年に発掘・回収を実施予定。

牡丹江(黒龍江省)
2018年に発掘・回収を開始。

琿春(吉林省)
2012年に発掘・回収を開始。



尚志(黒龍江省)
2015年に発掘・回収を開始。



ハルビン(黒龍江省)
処理場(移動式)準備中。2019年処理開始予定(約6000発)。



太原(山西省)
処理場候補地の選定中。313発の信管付砲弾の処理を2021年～2022年に予定。

広州(広東省)
処理場候補地の選定中。約300発の砲弾の処理を2021年～2022年に予定。

ハルバ嶺(吉林省)
最大の埋設数が推定される。総面積740haの敷地内で、2012年に発掘・回収を、2014年に試験廃棄処理を開始し、2018年に本格的な廃棄処理段階へ移行。



石家荘(河北省)
2012-16年に廃棄処理(移動式)。事業完了(2,567発)。

南京(江蘇省)
2010-12年に廃棄処理(移動式)。事業完了(35,681発)。

武漢(湖北省)
南京から移動式処理設備を移動。2014-15年に廃棄処理。事業完了(264発)。



回収数63,722発(2018年7月25日現在)
処理数50,532発(2018年7月25日現在)
(移動式処理数:38,512発、ハルバ嶺処理数:12,020発)